

研修カリキュラム表 (介護職員初任者研修)

事業所名：ドットコムマーケティング

令和7年度

科 目 の 内 容 等				評価方法
科 目 の 細 目	時間	「修了時の評価 ポイント」番号	実 施 方 法	
1 職務の理解（ 6 時間）				
（１）多様なサービスの理解	2		介護保険のサービス事業所・介護保険施設の 仕事内容を説明する。介護保険外のサービス についても説明する。	評価なし
（２）介護職の仕事内容や 働く現場の理解	4		介護の職場やイメージについて、グループで話 し合う。ケアプランから始まる、介護サービス提 供について講義する。要介護者の生活を支える のは介護職だけではなく、多職種で行われるこ と、及び地域資源も活用されることを講義する。	評価なし
2 介護における尊厳の保持・自立支援（ 9 時間）				
（１）人権と尊厳を支える介護	7.5	2－① 2－②	人権と尊厳保持についての基本的な考え方につ いて説明する。ICF、QOL、ノーマライゼーシ ョン等についての理解を深める。虐待防止・身 体拘束禁止と介護職員の担うべき役割につい て説明する。権利擁護に関する各制度について 理解を深める。	レポート提出、穴埋め問題、 ○×問題の課題提出で評価 する。
（２）自立に向けた介護	1.5	2－① 2－②	具体的な事例をいくつか示し、自立支援・介護 予防の考え方が理解できるように説明する。残 存機能を活用し、具体的なケアの方法や考え方 について説明する。	全科目終了後、筆記試験に よる修了評価において評価 する。
3 介護の基本（ 6 時間）				
（１）介護職の役割、専門性 と多職種との連携	1	3－① 3－②	地域包括ケアについて講義する。介護の専門 性、他職種の理解、チームケアについて確認す る。家族による介護とは異なり、根拠のある専 門的介護を実践することを理解させる。グルー プワークで、介護の専門性について、話し合い、 理解を深める。	全科目終了後、筆記試験に よる修了評価において評価 する。
（２）介護職の職業倫理	2	3－③	介護職に必要な守るべき職業倫理を知り、その 重要性について理解する。	通信形式はレポート提出、 穴埋め問題、○×問題の課 題提出で評価する。 通学形式は全科目終了後、 筆記試験による修了評価に おいて評価する。
（３）介護における安全の確 保とリスクマネジメント	2	3－④	リスクとリスクマネジメントについて講義 し、介護現場で起きた実際の事故例につい ても把握してもらう。また図や写真を用い てリスクの防止についても考えてもらう。 感染症の種類と対策について講義する。	通信形式はレポート提出、 穴埋め問題、○×問題の課 題提出で評価する。 通学形式は全科目終了後、 筆記試験による修了評価に おいて評価する。
（４）介護職の安全	1	3－⑤	介護職としての心身の健康管理についての重 要性、特に腰痛予防について、通信学習から理 解する。	レポート提出、穴埋め問題、 ○×問題の課題提出で評価 する。
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（ 9 時間）				
（１）介護保険制度	4	4－① 4－② 4－③	介護保険制度創設の背景、目的や動向につ いて説明する。また、介護保険制度の仕組み、保 険給付とその種類、要介護度、要支援認定、利 用者負担、地域支援事業についてテキストに 沿って重要ポイントを講義する。	通信形式はレポート提出、 穴埋め問題、○×問題の課 題提出で評価する。 通学形式は全科目終了後、 筆記試験による修了評価に おいて評価する。
（２）医療と連携とリハビリ テーション	2	4－⑤	医療職と介護職の役割や連携について説明す る。またリハビリテーションの理念と意義につ いて、通信学習から理解する。	レポート提出、穴埋め問題、 ○×問題の課題提出で評価 する。

(3) 障害福祉制度およびその他制度	3	4-④	障害の種類とICFの意味、障害者総合支援法の基礎、権利関係について、通信学習から理解を深める。	レポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。
5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)				
(1) 介護におけるコミュニケーション	3	5-① 5-② 5-③	介護職が専門職としてコミュニケーションを学ぶ意義や、コミュニケーション技術の基本視点について、事例やテキスト等を用いて説明する。利用者とのコミュニケーションの対応方法について演習を通して理解する。家族の心理や葛藤を知り、関わり方のポイントを説明する。	全科目終了後、筆記試験による修了評価において評価する。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3	5-④	チームケアにおける記録及び報告・連絡・相談の重要性とポイントを説明する。チームでのコミュニケーションを促すための環境や知識、技術について説明する。記録については事例をもとに理解を深める。カンファレンスや申し送り、会議等での介護職として心得ておきたいポイントを説明する。主に通信研修で実施する。	レポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。
6 老化の理解 (6 時間)				
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	6-①	老年期の喪失体験を説明し、老化に伴う心身の変化を説明し、その原因について理解できるように説明する。また、それらが日常生活にどのように影響するか説明する。	全科目終了後、筆記試験による修了評価において評価する。
(2) 高齢者と健康	3	6-②	高齢者に多い疾病の種類と症状の特徴について説明する。日常生活の留意点についても通信研修から理解を深める。	レポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。
7 認知症の理解 (6時間)				
(1) 認知症を取り巻く状況	1	7-①	介護における認知症理解の重要性を説明する。また、現在の認知症ケアが「その人を中心としたケア」(パーソンセンタードケア)であることを理解できるように説明する。	全科目終了後、筆記試験による修了評価において評価する。
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	7-② 7-⑤	認知症の種類と症状、その特徴について、テキストに沿って講義を行う。認知症と似た症状を示す現象や、認知症の方に特に注意すべき脱水・便秘・低栄養等の健康管理について講義する。	全科目終了後、筆記試験による修了評価において評価する。
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化	2	7-③ 7-④ 7-⑥ 7-⑦	認知症の中核症状とBPSDについて説明する。適切なケアと不適切なケアを考え、環境による働きかけの方法について説明する。具体的なBPSDについてその原因となっている要素を考える。主に通信研修で実施。	レポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。
(4) 家族への支援	1	7-⑧	認知症介護を行っている家族の心情や介護負担について理解し、支援方法について通信研修から考える。	レポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。
8 障害の理解 (3時間)				
(1) 障害の基礎的理解	1	8-①	障害とはどういうものなのか、ICFに基づき説明をする。ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンの各概念と、介護における基本的な考え方を説明する。	全科目終了後、筆記試験による修了評価において評価する。
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	1	8-①	障害の原因となる主たる疾患を説明する。障害の種類の特性と生活上での困難さ、介護上の留意点について説明する。	通信形式はレポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。 通学形式は全科目終了後、筆記試験による修了評価において評価する。
(3) 家族の心理、かかり支援の理解	1	8-②	家族の障害受容について説明し、家族にどのような支援が必要かを通信研修から考える。	レポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)				
■ 基本知識の学習 12時間				
(1) 介護の基本的な考え方	2	9-① 9-② 9-③	介護についての基本的な考え方の理論的な変遷について説明し、現在行われているICFの視点に基づく生活支援について理解を促す。介護の法的根拠を説明する。	「基本知識の学習」の最後の1時間を使い基礎的知識の理解度について確認するため、筆記による小テストを実施する。

(2) 介護に関するところのしくみの基本的理解	5	9-④	介護に関するところのしくみとして、学習、記憶、感情、意欲等の基礎について具体的な事例を用いて説明する。自己概念や生きがい、QOL(生活の質)について説明する。	通信形式はレポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。 通学形式は「基本知識の学習」の最後の1時間を使い基礎的知識の理解度について確認するため、筆記による小テストを実施する。
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	9-⑤	人体の各部の名称と働きに関する基礎的な知識について説明する。介護時におけるボディメカニクスの活用と意義について説明する。中枢神経と体性神経、自律神経と内部器官に関する基礎知識を伝えとともに、ところとからだの相互作用について説明する。主に通信研修で行う。	通信形式はレポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。 通学形式は「基本知識の学習」の最後の1時間を使い基礎的知識の理解度について確認するため、筆記による小テストを実施する。
■ 生活支援技術の学習 53時間				
(4) 生活と家事	3	9-⑥	家事援助の機能と基本原則について説明する。在宅や施設で行う家事支援の在り方について理解する。金銭管理の考え方および悪徳商法や経済的虐待等の被害の早期発見やその対応方法を説明する。通信研修で行う。	レポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。
(5) 快適な居住環境整備と介護	3	9-③	居住環境の安全性や快適さについて説明する。自宅で起きやすい事故と防止方法について理解する。通信研修で、それぞれの福祉用具について、どういう方が使用するのに適しているかを考える。テキストに写真の掲載がない福祉用具の種類について、他にどんな福祉用具があるかについて調べ学習を行う。	レポート提出、穴埋め問題、○×問題の課題提出で評価する。
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5	9-⑦	整容の意義について理解できるように説明する。身体状況に合わせた衣服の選択着脱等についての基礎的知識と実技的な手順やポイントを説明する。実技演習では、整容に関する事例を基にしたグループワークやロールプレイ等を行い、生活習慣の維持や社会参加の重要性について説明する。 講義：1時間、技術演習：4時間で行う。	修了試験時に、筆記試験を行う。また、講師がチェックリスト形式による確認を行ない、介護技術の習得度に係る評価を行う。
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	14	9-⑧	体位の名称について説明し、移動・移乗の必要性と、それに関連したところとからだのしくみについて説明する。残存機能の維持と自立支援、ボディメカニクスの活用について説明するとともに、利用者・介護者にとって負担を少なくするポイントについて説明する。移動・移乗に関する用具を示し、その活用方法について説明する。褥瘡の原因・予防・早期発見について説明する。実技演習では、移動・移乗に関連した事例をもとに、車いす・杖・歩行器・ベッド等の使用し、移動・移乗介護の実際の場面を想定したロールプレイを行う。 講義：3時間、技術演習：11時間で行う。	修了試験時に、筆記試験を行う。また、講師がチェックリスト形式による確認を行ない、介護技術の習得度に係る評価を行う。
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	9-⑨	食事の意義と栄養に関する知識の基礎を説明する。食事に関する食欲・摂食・嚥下・消化を中心にそのメカニズムを説明する。また、食事環境を整える重要性を伝えとともに、食事使用する自助具を紹介し、その使用方法について説明する。食事に関連した介護で起こりうる誤嚥・窒息・脱水等についての説明し、その防止方法を学ぶ。口腔ケアの基礎的知識とポイントを説明する。 実技演習では、食事に関する事例をもとに、様々な姿勢で食べてもらったり、ゼリーや飲料水を使用して食事介護や、歯ブラシ等を使用した口腔ケアのロールプレイを行う。 講義：3時間、技術演習：4時間で行う。	修了試験時に、筆記試験を行う。また、講師がチェックリスト形式による確認を行ない、介護技術の習得度に係る評価を行う。

(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	9-⑩	入浴、清潔保持がもたらす心身への効果や、それに関連したところとからだのしくみを説明する。入浴介助を行う上で起こる事故例を伝え、その事後防止の留意点について説明する。入浴設備や入浴関連用具を示し、その使用方法について説明する。実技演習では、洗髪、洗身方浴槽の出入りまでの入浴や、清潔保持介護について事例をもとにロールプレイを行う。 講義:3時間、技術演習:4時間で行う。	修了試験時に、筆記試験を行う。また、講師がチェックリスト形式による確認を行ない、介護技術の習得度に係る評価を行う。
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	9-⑪	排泄の意義と排泄に関連したところとからだのしくみを理解できるよう説明する。尿や便の生成過程や排出のしくみ、性質や状態、便秘のケアについて説明する。排泄ケアの心理的負担や自立支援の視点について説明し、排泄に関連する物品や用具の実物を示し、その使用方法を説明する。実技演習では、排泄に関する事例をもとに、ポータブルトイレや紙オムツを使用して排泄介護のロールプレイを行う。 講義:6時間、技術演習:6時間で行う。	修了試験時に、筆記試験を行う。また、講師がチェックリスト形式による確認を行ない、介護技術の習得度に係る評価を行う。
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	9-⑫	睡眠の必要性、睡眠を引き起こすメカニズムの説明をする。高齢者の睡眠の特徴についても理解を深める。安眠の為の環境の整備、福祉用具の活用方法の説明をする。褥瘡の原因とその予防方法について説明する。睡眠障害の説明とともに、睡眠薬の種類、効能および副作用の注意点、服薬介助のポイントを説明する。実技演習では、睡眠に関する事例をもとに、ベッドメイキングのロールプレイを行う。ベッドメイキングは、利用者が寝ていない場合及び寝ている場合について演習を行う。 講義:1時間、技術演習:2時間で行う。	修了試験時に、筆記試験を行う。また、講師がチェックリスト形式による確認を行ない、介護技術の習得度に係る評価を行う。
(12) 死にゆく人に関連したところとからだ	3	9-⑬	終末期に関する基礎的知識について説明する。終末期の生命徴候の変化について説明する。本人及び家族の「死」に対してのこころの変化とその受容段階、こころのケアの必要性について説明する。終末期をチームで支援していく必要性やターミナルケアの意義が事例をもとに理解できるよう説明する。受講生が死生観を考える機会を作る。 講義3時間で行う。	全科目終了後、筆記試験による修了評価において評価する。
■ 生活支援技術演習 10時間				
(13) 介護過程の基礎的理解	3	9-① 9-②	介護過程の目的・意義を説明し、根拠に基づいた介護を実践の必要性についての理解を促す。展開過程として、アセスメント、計画の立案、実施、評価について説明する。チームアプローチにおける介護職の役割を説明する。他専門職との連携や専門性の尊重について説明する。	全科目終了後、筆記試験による修了評価において評価する。
(14) 総合生活支援技術演習	7	9-⑦ 9-⑧ 9-⑨ 9-⑩ 9-⑪ 9-⑫	テキストにある利用者の生活場面についての事例を示し、その利用者が持っている力を発揮できない要因の分析、支援技術や工夫の検討、支援の演習、振り返りを行う。演習を通じて支援ポイントを検討して、根拠のある介護展開ができるように促す。	修了試験時に、筆記試験を行う。また、講師がチェックリスト形式による確認を行ない、介護技術の習得度に係る評価を行う。
10 振り返り (4時間)				
(1) 振り返り	2		これまでの研修全体を振り返り、「介護」「介護サービスの利用者」「介護職の働く場」「介護職が大切にすべき視点」について考える。介護観や理想の介護職員像についても考える。	評価なし
(2) 就業への備えと就業後における継続的な研修	2		就業への備えとして、職場環境への早期適応等や、離職防止、ネットワーク構築の重要性について説明する。受講者が就業したあと継続的に学ぶことの意義やその方法例を伝える。受講生が、不安に思っていることを解決し、介護職員初任者研修修了者としてやりがいを持ち、介護の仕事が継続できるように促す。	評価なし
合計	130時間			